

三菱電機(株)長崎製作所

生きものの 図鑑

調査期間:
2015年
5月27日~29日

長崎製作所プロフィール

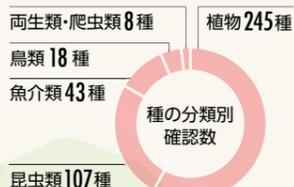
三菱電機(株)長崎製作所は長崎県南部の大村湾に面し、海と山に囲まれた自然豊かな立地にある工場です。快適な車内空間を提供する車両用空調機器、駅での安全を確保する可動式ホーム柵、迫力ある映像を提供する大型映像表示装置など安全・快適な社会づくりに貢献する製品を提供しています。

所在地: 長崎県西彼杵郡時津町浜田郷517番7号

内外あわせて動物176種、 植物245種を確認

(うち動物82種、植物165種を構内で確認)

工場の植え込み・草地と工場内を流れる水路(中川)だけで、250種近い生きものを確認できました。また、近隣の公園(神崎花園)や付近の川・海岸(遊歩道)でも、希少な貝や両生類などが見つかっています。



製作所構内

水路(中川)



コゲツノブエガイ

在来種 絶滅危惧種

近年数を減らしている貝のひとつで、長崎県の一部の地域では採取が禁じられています。
※「長崎県レッドリスト(2013)」絶滅危惧B類(EN)



ヒメカノコガイ

在来種

アクアリウムの世界では「水槽のコケとり」でおなじみの貝ですが、地域によっては絶滅が危ぶまれています。



マメコブシガニ

在来種

干潟に生息するカニの一種。前後にも歩ける足が特徴です。死んだ生物を食べる「掃除屋」の一種でもあります。

潮の満ち引きがつくる 「小さな干潟」

魚はともかく、コンクリートで覆われた工場水路のどこに貝やカニが?...と思われた方も多はず。実は、これらの生きものが観察された場所のひとつは、水路が海に流れ込む「河口」の部分でした。潮の満ち引きや降雨のたび、水の勢いが弱いこの場所に土砂が降り積もり、干潮の時間帯には「干潟」に近い環境ができていたのです。



干潮時には水路からほとんど水がなくなります。

草地ほか(建物など)



ニラバラ

在来種

海岸近くの日当たりがいい草に生えるランの仲間。国内の広い範囲で見られますが、長崎県内では数を減らしています。



インヒヨドリ

在来種

海岸近くで見られ、オスは青とオレンジの鮮やかな羽が特徴。名前はヒヨドリですが、実際はツグミの仲間です。



キマダラカメムシ

外来種

外来種の大型カメムシ。暖かい環境を好み、近年は温暖化に伴って急速に北上しています。



アカメガシワ

在来種

日当たりのいい開けた土地を好むため、海岸でもよく見られます。名前の由来は新しく生えた葉が一様に赤いことから。



ニホンヤモリ

在来種

人家の近くで見られるため「家守」とも。指先の吸盤でガラスの上も自在に移動します。

植え込み

田下川・入船川



イボニシ

在来種

ごつごつとした殻が特徴の小さな巻貝。肉食性で、ほかの貝の殻に穴を開け、中身を食うことで知られます。



インスジエビ

在来種

国内外の海岸部に広く分布する小型のエビ。体の模様は成長につれて複雑になります。



ボラ

在来種

全国の川の下流～海に広く分布。よく水面に飛び上がることで知られる魚です。眼が発達していて、色を見分けられるとも。



インガニ

在来種

名前の通り、岩のある海岸によく見られる小型のカニです。



クロマツ

在来種

潮風に強く、昔から海岸付近に防砂林として植栽されてきました。

製作所構外

神崎花園(水辺/植え込み、草地)



ヌマガエル

在来種

おもに西日本以西の水田などに生息するカエルです。繁殖期のオスは、のどをハート型にふくらませて鳴きます。



ショウジョウトンボ

在来種

名前のショウジョウは赤いものをさす言葉。オスが鮮やかな赤色をしていることからこの名がつけました。



ナルトサワギク

外来種 特定外来種

温暖な気候を好むキクの仲間。一年を通して見られます。もとはアメリカから輸入された種子に混ざっていたとみられています。

人が維持する自然もある?

本来は、自然の草地は、低木が生えて雑木林となり、ゆっくりと樹林に変化(遷移)していきます。近年減少が危ぶまれている「里山」は、草刈りや間引きによってこの変化が抑えられた環境なのです。

神崎花園の調査では里山に棲む生きものも多数確認されました。定期的にボランティアが草刈りなどを行うため、里山に近い環境が保たれていたとみられています。



ボランティアによる草刈りの様子。当製作所も毎回参加しています。